

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年2月8日
【四半期会計期間】	第95期第3四半期（自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日）
【会社名】	株式会社ミクニ
【英訳名】	MIKUNI CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 生田 久貴
【本店の所在の場所】	東京都千代田区外神田六丁目13番11号
【電話番号】	03（3833）0392（代表）
【事務連絡者氏名】	経理室長 清家 將紫
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区外神田六丁目13番11号
【電話番号】	03（3833）0392（代表）
【事務連絡者氏名】	経理室長 清家 將紫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第94期 第3四半期 連結累計期間	第95期 第3四半期 連結累計期間	第94期
会計期間	自平成27年4月1日 至平成27年12月31日	自平成28年4月1日 至平成28年12月31日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
売上高 (百万円)	72,888	68,948	97,874
経常利益 (百万円)	1,636	2,017	3,046
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	765	1,794	1,269
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	639	638	1,271
純資産額 (百万円)	28,633	26,976	27,950
総資産額 (百万円)	90,229	84,811	85,590
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	22.69	53.38	37.67
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	30.15	30.22	31.00

回次	第94期 第3四半期 連結会計期間	第95期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成27年10月1日 至平成27年12月31日	自平成28年10月1日 至平成28年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	4.80	30.13

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高は、消費税等抜きで表示しております。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 当社は、第94期第2四半期連結会計期間より、「役員報酬BIP信託」を導入しており、当該信託の信託口が保有する当社株式を自己株式として処理しております。これに伴い、1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定上、当該株式数を自己株式に含めて「普通株式の期中平均株式数」を算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日～平成28年12月31日）におけるわが国経済は個人消費に持ち直しの動きが見られ、全体として緩やかな回復基調が続きました。海外においては、米国景気の拡大が続いたのに加え中国景気にも持ち直しの動きが見られ、世界経済は緩やかに回復しました。

このような経営環境における当グループの売上高は、新興国において二輪車生産が前年を下回って推移したこともあり、689億4千8百万円（前年同期比5.4%減）となりました。四輪車向けを中心に生産の効率化が進み営業利益率が改善し、営業利益は、21億2千5百万円（前年同期比27.4%増）となりました。金融収支が改善しましたが為替差損が発生し、経常利益は、20億1千7百万円（前年同期比23.3%増）となりました。受取補償金を特別利益に計上したため、親会社株主に帰属する四半期純利益は、17億9千4百万円（前年同期比134.4%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

自動車関連品事業

四輪車・二輪車・汎用エンジン用燃料供給装置類及びエンジン関連機能品類の製造販売を中心とする当事業の売上高は、前年同期に比べて減少しました。四輪車用製品は海外で好調に推移しましたが、国内軽自動車生産が低水準にとどまり、小幅ながら減収となりました。二輪車用製品は大型二輪車で当社製品の搭載機種が増加しましたが、新興国市場において二輪車需要が低迷した影響を受け減収となりました。営業利益につきましては、生産の効率化が進み、営業利益率が前年同期に比べて改善しました。この結果、当事業の売上高は、425億7千3百万円（前年同期比5.0%減）となり、営業利益は、15億5千3百万円（前年同期比18.1%増）となりました。

生活機器関連品事業

ガス機器用制御機器類及び水制御機器類などの製造販売を中心とする当事業の売上高は、前年同期に比べて減少しました。国内では低価格帯コンロの販売減少による影響を受けました。海外では中国を中心に給湯器向けガス流量制御弁が好調に推移したことに加え、生産の効率化が進みました。この結果、当事業の売上高は、52億1千7百万円（前年同期比5.2%減）となり、営業利益は、1億9千2百万円（前年同期比41.2%増）となりました。

航空機部品輸入販売事業

航空機部品類の売上高は前年同期に比べて減少しました。国内の航空機産業は長期的な成長が期待されますが、当第3四半期連結累計期間においては既存量産機種の生産台数減少の影響を受けました。当事業は国内における売上高が主に米ドル建てのため、為替変動の影響も受けました。この結果、当事業の売上高は、159億5千5百万円（前年同期比7.4%減）となり、営業利益は、1億7千3百万円（前年同期比50.9%減）となりました。

その他事業

芝管理機械等の販売及び福祉介護機器・車輛用暖房機器類の製造販売を中心とする当事業の売上高は、前年同期に比べて減少しました。芝管理機械等は季節的な回復はあるものの、ゴルフカートの買い替えサイクル長期化の影響を受け減収となりました。福祉介護機器は前年同期並みとなりました。車輛用暖房機器は観光バス向け的好調が続き、増収となりました。この結果、当事業の売上高は、52億1百万円（前年同期比2.7%減）となり、営業利益は、2億5百万円（前年同期は1億3千8百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、848億1千1百万円となり、前連結会計年度末に比べて7億7千9百万円減少しました。

流動資産は、383億7千4百万円となり、前連結会計年度末に比べて10億4千9百万円減少しました。これは主な要因として、現金及び預金が16億2千1百万円増加したものの、受取手形及び売掛金並びに電子記録債権の合計が20億9千2百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、464億3千7百万円となり、前連結会計年度末に比べて2億7千万円増加しました。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、578億3千4百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億9千4百万円増加しました。

純資産は269億7千6百万円となり、前連結会計年度末に比べて9億7千4百万円減少しました。これは主として、四半期純利益を19億1千7百万円計上したことに加え、その他有価証券評価差額金が7億8千8百万円増加したものの、為替換算調整勘定が30億9千5百万円減少したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、35億7千9百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	110,000,000
計	110,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成29年2月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	34,049,423	34,049,423	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株です。
計	34,049,423	34,049,423	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年10月1日～ 平成28年12月31日	-	34,049,423	-	2,215	-	1,700

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成28年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 182,400	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 33,819,600	338,196	-
単元未満株式	普通株式 47,423	-	-
発行済株式総数	34,049,423	-	-
総株主の議決権	-	338,196	-

- （注）1．「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれております。
2．「完全議決権株式（その他）」の欄には、「役員報酬BIP信託」にかかる信託口が保有する当社株式244,500株（議決権の数2,445個）が含まれております。

【自己株式等】

平成28年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総 数に対する所 有株式数の 割合（％）
株式会社ミクニ	東京都千代田区外神田 6 - 13 - 11	182,400	-	182,400	0.54
計	-	182,400	-	182,400	0.54

（注） 「役員報酬BIP信託」にかかる信託口が保有する当社株式は、上記自己保有株式には含まれておりません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当第3四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人日本橋事務所による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,671	7,293
受取手形及び売掛金	18,202	¹ 15,947
電子記録債権	943	1,106
商品及び製品	7,400	6,616
仕掛品	2,518	3,453
原材料及び貯蔵品	1,188	1,447
その他	3,588	2,556
貸倒引当金	90	47
流動資産合計	39,423	38,374
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,263	9,941
機械装置及び運搬具(純額)	9,016	8,755
工具、器具及び備品(純額)	2,262	1,946
土地	12,050	11,799
建設仮勘定	2,602	2,735
有形固定資産合計	36,194	35,178
無形固定資産		
のれん	239	224
その他	736	704
無形固定資産合計	976	928
投資その他の資産	² 8,996	² 10,329
固定資産合計	46,167	46,437
資産合計	85,590	84,811
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,380	¹ 11,114
短期借入金	15,004	15,474
1年内返済予定の長期借入金	3,819	3,940
未払法人税等	167	263
賞与引当金	1,293	732
製品保証引当金	878	214
その他	4,457	5,251
流動負債合計	37,001	36,990
固定負債		
長期借入金	10,777	11,536
退職給付に係る負債	5,737	3,710
役員報酬BIP信託引当金	15	10
その他	4,107	5,586
固定負債合計	20,638	20,844
負債合計	57,639	57,834

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,215	2,215
資本剰余金	1,700	1,700
利益剰余金	14,204	15,491
自己株式	186	186
株主資本合計	17,934	19,220
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,806	2,595
繰延ヘッジ損益	1	12
土地再評価差額金	5,273	5,273
為替換算調整勘定	2,217	878
退職給付に係る調整累計額	695	595
その他の包括利益累計額合計	8,600	6,407
非支配株主持分	1,416	1,349
純資産合計	27,950	26,976
負債純資産合計	85,590	84,811

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 3 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年12月31日)
売上高	72,888	68,948
売上原価	63,159	58,990
売上総利益	9,728	9,957
販売費及び一般管理費	8,060	7,832
営業利益	1,667	2,125
営業外収益		
受取利息	32	46
受取配当金	83	81
持分法による投資利益	31	27
為替差益	26	-
受取賃貸料	90	164
その他	162	102
営業外収益合計	426	422
営業外費用		
支払利息	342	263
為替差損	-	121
その他	114	144
営業外費用合計	457	529
経常利益	1,636	2,017
特別利益		
固定資産売却益	7	133
投資有価証券売却益	105	-
退職給付制度終了益	-	171
受取補償金	-	594
その他	0	5
特別利益合計	113	903
特別損失		
固定資産除売却損	32	50
減損損失	198	-
その他	5	12
特別損失合計	136	63
税金等調整前四半期純利益	1,612	2,858
法人税等	732	940
四半期純利益	880	1,917
非支配株主に帰属する四半期純利益	114	123
親会社株主に帰属する四半期純利益	765	1,794

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
四半期純利益	880	1,917
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	29	788
繰延ヘッジ損益	9	13
為替換算調整勘定	1,520	3,425
退職給付に係る調整額	6	100
持分法適用会社に対する持分相当額	26	33
その他の包括利益合計	1,519	2,556
四半期包括利益	639	638
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	558	398
非支配株主に係る四半期包括利益	80	240

【注記事項】

（会計方針の変更）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年 6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年 4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

（四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理）

（税金費用の計算）

税金費用については、一部の連結子会社は、税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

（追加情報）

（退職給付制度の移行）

当社は、平成28年 4月1日付で確定給付年金制度の一部を確定拠出年金制度へ移行し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」（企業会計基準適用指針第1号 平成14年 1月31日）及び「退職給付制度間の移行等の会計処理に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第2号 平成19年 2月7日）を適用しております。当制度移行に伴い、当第3四半期連結累計期間の特別利益（退職給付制度終了益）として171百万円を計上しております。

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年 3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

（役員向け株式報酬制度）

当社は、当社の取締役（社外取締役を除く。）及び当社と委任契約を締結している執行役員（以下「取締役等」という。）に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

1 取引の概要

当社は、取締役等を対象に、当社の中長期的な業績向上と企業価値増大への貢献意欲を高めることを目的として、平成27年 8月17日に株式報酬制度（以下「本制度」という。）を導入いたしました。

本制度では、役員報酬 B I P（Board Incentive Plan）信託（以下「B I P 信託」という。）と称される仕組みを採用しております。B I P 信託とは、米国の業績連動型株式報酬（Performance Share）制度及び譲渡制限付株式報酬（Restricted Stock）制度を参考にした役員に対するインセンティブ・プランであり、B I P 信託が取得した当社株式及び当社株式の換価処分金相当額の金銭を役位や業績目標の達成度等に応じて、原則として取締役等の退任時に交付及び給付するものであります。

なお、信託内にある当社株式については、経営への中立性を確保するため、信託期間中、議決権を行使しないものとしております。

2 信託が保有する自社の株式に関する事項

信託が保有する当社株式の信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）は、前連結会計年度130百万円、当第3四半期連結会計期間130百万円で、株主資本において自己株式として計上しております。

また、当該株式数は、前連結会計年度244,500株、当第3四半期連結会計期間244,500株であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
受取手形	- 百万円	82百万円
支払手形	- 百万円	226百万円

2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
投資その他の資産	200百万円	205百万円

3 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入金に対し、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
ピエルブルグ・ミクニ・ポンプ・ テクノロジー株式会社	- 百万円	20百万円
ピエルブルグ・ミクニ・ポンプ・ テクノロジー(上海)有限公司 (うち外貨額)	28百万円 (1,653千元)	- 百万円 (- 千元)
エバスペヒャー ミクニ クライメッ ト コントロール システムズ株式会社	110百万円	100百万円
計	138百万円	120百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 減損損失

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

減損損失を認識した資産の内訳

用途	場所	種類	金額
事業用資産	静岡県榛原郡吉田町	土地、建物及び構築物	98百万円

資産のグルーピングの方法

事業用資産については継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分ごとにグルーピングを行っております。賃貸資産及び遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

減損損失の認識に至った経緯

上記の資産について、売却が決定したことによりその資産を個別のグルーピングとして捉え、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(98百万円)として特別損失に計上しております。その内訳は、土地65百万円、建物31百万円、構築物1百万円であります。

回収可能価額の算定

正味売却価額により測定しており、不動産売買契約に基づき算出しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
減価償却費	3,291百万円	3,134百万円
のれんの償却額	22百万円	50百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	338	利益剰余金	10	平成27年3月31日	平成27年6月29日
平成27年10月26日 取締役会	普通株式	169	利益剰余金	5	平成27年9月30日	平成27年12月7日

(注) 1. 平成27年10月26日取締役会決議による1株当たり配当額5円00銭は、平成27年3月31日付の当社株式の東京証券取引所第一部銘柄指定に対する記念配当であります。

2. 平成27年10月26日取締役会決議による配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」の信託口が保有する当社株式への配当金1百万円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	338	利益剰余金	10	平成28年3月31日	平成28年6月29日
平成28年11月9日 取締役会	普通株式	169	利益剰余金	5	平成28年9月30日	平成28年12月6日

(注) 1. 平成28年6月28日定時株主総会決議による配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」の信託口が保有する当社株式への配当金2百万円が含まれております。

2. 平成28年11月9日取締役会決議による配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」の信託口が保有する当社株式への配当金1百万円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	自動車 関連品	生活機器 関連品	航空機部品 輸入販売	計				
売上高								
外部顧客への売上高	44,804	5,503	17,235	67,543	5,344	72,888	-	72,888
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	44,804	5,503	17,235	67,543	5,344	72,888	-	72,888
セグメント利益 又は損失()	1,315	136	353	1,805	138	1,667	-	1,667

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、芝管理機械等の販売及び福祉介護機器・車輛用暖房機器類の製造販売事業等を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	自動車 関連品	生活機器 関連品	航空機部品 輸入販売	計				
売上高								
外部顧客への売上高	42,573	5,217	15,955	63,746	5,201	68,948	-	68,948
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	42,573	5,217	15,955	63,746	5,201	68,948	-	68,948
セグメント利益 又は損失()	1,553	192	173	1,920	205	2,125	-	2,125

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、芝管理機械等の販売及び福祉介護機器・車輛用暖房機器類の製造販売事業等を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更したため、事業セグメントの減価償却の方法を同様に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間のセグメント利益又は損失に与える影響は軽微であります。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	22.69円	53.38円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 (百万円)	765	1,794
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額 (百万円)	765	1,794
普通株式の期中平均株式数 (千株)	33,745	33,622

(注) 1 . 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 . 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1 株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

1 株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数

前第 3 四半期連結累計期間 122,250株 当第 3 四半期連結累計期間 244,500株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第95期 (平成28年 4 月 1 日から平成29年 3 月31日まで) 中間配当について、平成28年11月 9 日開催の取締役会において、平成28年 9 月30日の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次の通り中間配当を行うことを決議し、配当を行っております。

配当金の総額 169百万円

1 株当たりの金額 5 円00銭

支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成28年12月 6 日

(注) 配当金の総額には、「役員報酬 B I P 信託」にかかる信託口が保有する当社株式への配当金 1 百万円が含まれております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 2 月 8 日

株式会社ミクニ
取締役会 御中

監査法人日本橋事務所

指定社員 公認会計士 小倉 明 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 渡邊 均 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ミクニの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ミクニ及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。